

羅臼町幼小中高の教育 診断編

幼稚園・小学校・中学校・高校の平成29年度の取組状況について紹介します。

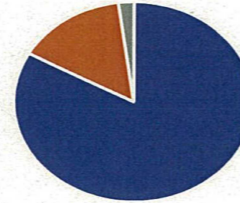
平成29年度 羅臼幼稚園の教育 【診断編】

今年も16項目にわたる保護者運営評価を行い、今年度の取り組みの項目から抜粋しました。全体的に高い評価を頂きました。今後の取り組みをまとめてみました。

小学校との相互訪問による体験活動や5歳児3学期午後保育など、小学校との連携に力を入れている。

幼小の円滑な接続の推進

- 幼稚園と小学校との交流をより一層深化させ、互恵性のある円滑な接続を推進するために互いの教育を理解し見通す「連続性・一貫性」を捉えた接続カリキュラムの編成実施。
- 年長午後保育の充実～小学校入学を念頭に、みんなと一緒に教師の話の聞いたり、行動したり、きまりを守ったりしながら楽しく活動する。

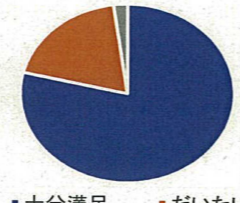


今年度も、交流を通し互恵性のある活動ができた。教師間でも月一度の教務同士の打ち合わせを継続し日々の保育の中で就学を意識した実践することができた。今後は学びの連続性を意識した研修も取り入れたい。

園は、自然環境を生かし、地域との連携など体験を豊かにするための活動に力を入れている。

ESD教育

- 年間計画を教育課程に位置づけ、自然とのかわりを通して幼児が共に育ち合う体験活動の充実。

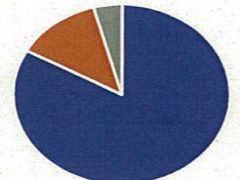


悪天候のため計画通り出られない場所もあったが、日々できるだけ戸外で遊ぶ時間を確保した。今後も、自然環境を通しての学びの継続、新たに海洋教育も取り組んでいきたい。

食べることが喜びにつながる食指導で、好き嫌いの指導などPTAとも協力し食育に力を入れている。

食育活動

- 食べることが喜びにつながる食指導～季節の食材を知り、食べ物と自然を大切にすることを育む。
- PTA食育～各学年の役員さんを中心に地域でとれた農産物魚介類などを使った献立を考えてもらう。

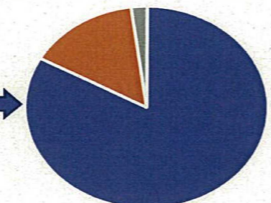


今年度も、各学年のPTAの協力を得て行うことができた。「一口食べられた」「みんなと一緒に食べるとおいしい」など嫌いな物でも食べてみようという意欲が育った。今後も継続していきたい。

子どもは、喜んで登園し、幼稚園が楽しいと言っている。

自ら考えようとする気持ちを育む

- 様々な遊びの中で、友達と一緒に試行錯誤しながら遊びが充実するための環境構成や援助を探る。
 - ・「楽しい」「おもしろい」「やってみよう」と思ったり感じたりできる環境の工夫。
 - ・自分とは違う友達の意見や考えを取り入れ、互いの良さや違いに気づき認めあうことができる援助。



自分で試したり、友達と一緒に考えたりする中で、新しい発見をしたり、友達の考えを認めたりしながら楽しく遊ぶことができた。今後は、考える『思考力』に加え、相手に分かる伝え方、伝え合い、言葉の表現する力『表現力』も取り組みたいと考えている。

平成29年度 羅臼町立春松幼稚園 診断編

I 29年度の重点

- 1 みんながつながる「あいさつ」「ことば」を重視する
 - 幼・小・中・高一貫した取り組み「元気なあいさつ」の徹底を図る。
 - つながりを広げる言葉を身に付け、「伝える力」を育てる。
- 2 のびのび体を動かし、しなやかな身体づくりを意識する
 - 楽しくたっぴりと体を動かし、身体づくりにつながる遊びを工夫して取り入れる。
 - 生活に必要な基本的習慣や行動、態度をしっかりと身につけさせる。
- 3 学校・家庭・地域とたしかにつながる
 - 保護者との連携を大切にし、共に子どもの自己肯定感、自己有用感を高める。
 - 小学校との連携で、遊びから学びの円滑な接続を図る。(園で育てることを明確化して)

II 園評価(保護者アンケート)より A:満足 B:だいたい満足 C:やや不満 D:まったく不満 E:わからない

<重点1 に関連して>

- 2 園は基本的な生活習慣(あいさつ、手洗いやうがい、後片付けなど)を身に付けるよう指導している。
A:24 B:9 C:0 D:0 E:1

<重点2 に関連して>

- 3 園は命の大切さや、集団生活・集団生活のルールを守るよう指導している
A:22 B:11 C:0 D:0 E:1

- 4 園はしぜん環境を生かし、外遊びや散歩・体験をゆたかにするための指導を進んで行っている
A:32 B:1 C:0 D:0 E:1

- 6 園の行事は、保護者の理解を得ながら行い、子どものためにも「いい体験」となっている
A:22 B:4 C:1 D:1 E:1

<重点3 に関連して>

- 16 園から発行されるお便りやいろいろな連絡文書は読みやすくわかりやすい
A:13 B:14 C:6 D:0 E:1

- 17 園での子どもの様子を、参観日や行事やクラス便り・連絡ノートでよく知ることができる
A:23 B:8 C:2 D:0 E:1

- 7 園は、保護者が子どもの健康や生活、子育てなどについて気軽に相談できる
A:22 B:9 C:2 D:2 E:1

- 8 小学校とのなめらかなつながりを意識した相互訪問や交流など、連携を図ることに力を入れている
A:25 B:7 C:2 D:2 E:2

<今後に向けて>

12月に実施の園評価は73%の回収率であった。一部C評価(やや不満)が高い点もあるが、保護者の皆様からは良い評価をいただいた。

重点3、家庭とのつながりでは、お便りやノートでの連絡の他に定期的なブログの更新や家庭教育学級の充実を図っていききたい。小学校との連携では、H30年度の幼稚園教育要領の改訂を受け、幼と小のよりスムーズな接続をめざし協議を深めていくことが重要であり、改善を進めていきたい。

平成29年度 羅臼小学校の教育【診断編】

学校の教育目標

激しい時代の変化に適応できる人間性豊かな児童の育成を目指し、知床の豊かな自然のふとこで、人・自然・まちと触れ合いながら、故郷を愛し、自他のよさを認め合い、個性を磨き、「心豊かにたくましく生きる子ども」を育てる。

今年度の重点

豊かな学びを創り楽しむ子どもを育てるために「基礎基本の定着」と「学び方を学ぶ」
本年度のテーマ「深化」

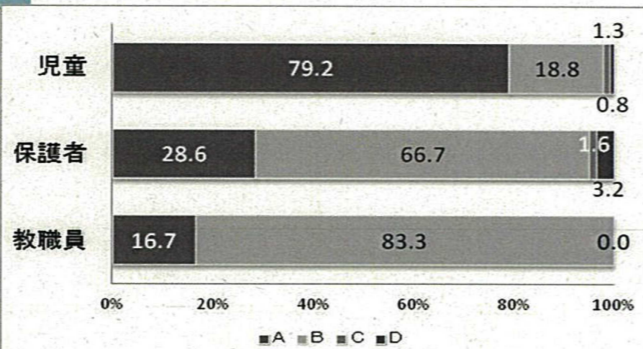
学校評価から

A：よくあてはまる B：だいたいあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

- 1 【児童】先生は、「知りたい」「やってみたい」と思うような楽しい授業をしてくれる。
【保護者】学校では、子どもの興味や意欲を高めるような楽しい授業を工夫している。
【教職員】私は、子どもの意欲を高めるような楽しい授業を行っている。

(数字=%) A・B合わせて8割を越えているものに

| | A | B | C | D |
|-----|------|------|------|-----|
| 児童 | 79.2 | 18.8 | 1.3 | 0.8 |
| 7月 | 95.3 | | 4.7 | |
| 保護者 | 23.4 | 64.1 | 7.8 | 4.7 |
| 7月 | 87.5 | | 12.5 | |
| 教職員 | 9.1 | 90.9 | 0 | 0 |
| 7月 | 100 | | 0 | |

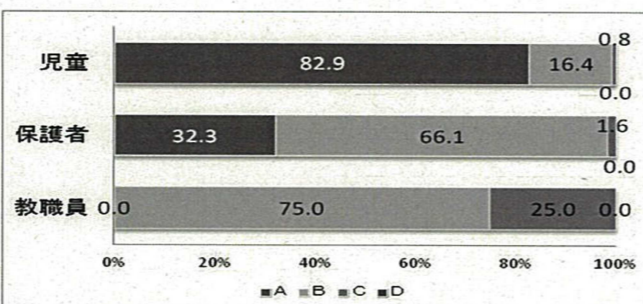


- 児童アンケートからは、授業が楽しいと感じている児童は98%と高く、7月実施に比べても数値が上がっており、授業に対して満足していると捉えることが出来る。
○授業が楽しいと思えることは、学校運営の根幹と言える。今後も校内研修を通して研鑽を行い、より質の高い授業を行うようにする。

- 2 【児童】先生は、勉強がよくわかるようにおしえてくれる。
【保護者】学校では、基礎的な学力が身に付くような分かりやすい授業をしている。
【教職員】私は、基礎・基本の定着を図るための指導方法、形態を工夫し、成果が上がっている。

(数字=%) A・B合わせて8割を越えているものに

| | A | B | C | D |
|-----|------|------|------|---|
| 児童 | 82.9 | 16.4 | 0.8 | 0 |
| 7月 | 96.8 | | 3.2 | |
| 保護者 | 32.3 | 66.1 | 1.6 | 0 |
| 7月 | 85.7 | | 14.3 | |
| 教職員 | 0 | 75.0 | 25.0 | 0 |
| 7月 | 72.7 | | 27.3 | |



- 児童・保護者アンケートでは、98%を越えており、授業について満足している事がうかがえる。
○教職員の25%が授業について課題を感じている。今後、より質の高い教育を提供できるように研鑽に努めていく。

学校評価から、教職員の指導技術の向上が数値から伺える。日々の研鑽の成果が上がっていると考えられる。しかし教職員は、まだまだ実感をとまなっておらず、より客観的な資料に基づいて、成果が分かる形での検証が必要である。

平成29年度 春松小学校の教育【診断編】

学校の教育目標

郷土の発展に役立つ実践力のある社会人となるために、勤労を尊び、仲良く助け合い、豊かな情操と高い知性を持ち、何事もやり抜く心身ともに健康な子供を育てる。

今年度の重点目標

豊かなかかわりを通して、自立の力と共生の心を育む

元気な子

『自らつくる力』の育成

◎心身の健やかな成長を促す健康・安全教育の推進

保護者アンケート結果

(※Max.5)

| 評価項目(要約表現) | 1学期 | 2学期 |
|--------------------|-----|-----|
| 1 偏食なく食べている | 3.3 | 3.5 |
| 2 進んで体を動かす | 3.7 | 4.0 |
| 7 やる気があり、元気に登校している | 4.3 | 4.3 |
| ☆児童評価 | 4.3 | 4.4 |

次年度に向けた(3学期の)重点課題

- 食事(給食を含む)の重要性を理解した健康管理
 - ・「早寝・早起き・朝ごはん」の推奨
 - ・通信等による注意喚起や情報提供
 - ・「うがい・手洗い」の励行

*前回の評価よりもわずかではあるが向上している。学校だけではなく、各家庭の理解と協力のおかげで、改善が図られたと考える。

考える子

『自ら学ぶ力』の育成

◎学習意欲の向上と確かな学力を定着させる教育の推進

保護者アンケート結果

(※Max.5)

| 評価項目(要約表現) | 1学期 | 2学期 |
|---------------------|-----|-----|
| 3 学習のきまりが身に付いている | 3.3 | 3.3 |
| 4 あきらめないで取り組む | 3.9 | 4.0 |
| 8 わかること、できることが増えている | 3.5 | 3.8 |
| ☆児童評価 | 4.2 | 4.2 |
| 17 TTによる基礎学力の向上 | 3.6 | 3.8 |
| ☆児童評価 | 4.6 | 4.6 |

次年度に向けた(3学期の)重点課題

- 根拠を持って自分の意見を相手に伝える
 - ・各教科における言語活動の充実
 - ・ねらいを明確にした分かる授業の創造
- 次学年への確かな学力の接続
- 新学習指導要領への円滑な移行
 - ・外国語(5・6年)、外国語活動(3・4年)
 - ・道徳科(評価基準、所見内容)
 - ・総合的な学習、知床学

*児童が、学習の成果を実感できるよう、複数指導の授業形態の工夫や振り返りの場面設定等の改善を図る。

やさしい子

『自らかかわる力』の育成

◎人権尊重の精神を基盤とした共生の心を醸成する教育の推進

保護者アンケート結果

(※Max.5)

| 評価項目(要約表現) | 1学期 | 2学期 |
|------------------|-----|-----|
| 5 授業中の挨拶・返事・言葉遣い | 3.7 | 3.9 |
| 6 友達と協力してがんばる | 4.0 | 4.4 |
| 9 周りの人にやさしくする | 3.8 | 4.1 |
| ☆児童評価 | 4.2 | 4.3 |

次年度に向けた(3学期の)重点課題

- 豊かで温かい人間関係の醸成
 - ・「挨拶・返事・言葉遣い」の意識化
 - ・道徳科の授業を通じた生徒指導の充実
 - ・異年齢集団での活動を通じた人間関係の醸成

*各質問の結果は向上しているが、「挨拶・返事・言葉遣い」は校外や家庭でも無意識にできるよう取組を継続する。



よりよい羅臼中学校を目指して

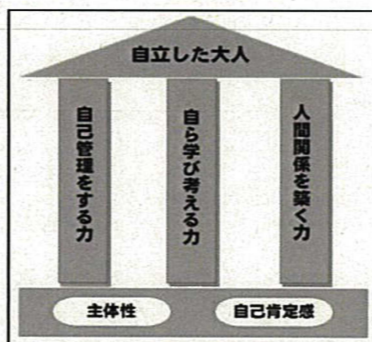
全国学力学習状況調査・生徒質問紙から

・全国と比べて好ましい傾向

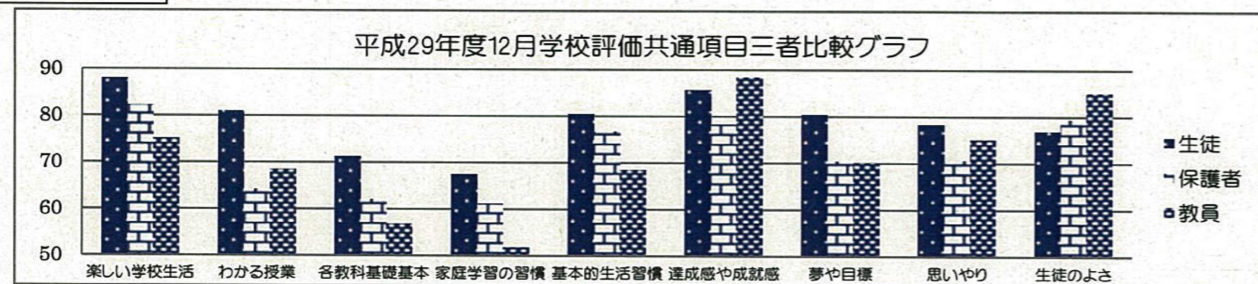
- ①物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある
- ②自分にはよいところがあると思う
- ③先生は自分のよいところを認めてくれている
- ④学級みんなで協力してやり遂げてうれしかったことがある
- ⑤いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
- ⑥国語の授業の内容がよくわかる
- ⑦難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している
- ⑧家で、学校の宿題をやっている
- ⑨授業のはじめに、目標（めあて、ねらい）が示されていた
- ⑩授業の最後に、学習内容を振り返る活動を行っていた

・全国と比べて好ましくない傾向

- ①国語の勉強が好きだ
- ②国語の勉強は大切だと思う
- ③国語の授業で学習したことは、社会に出たときに役に立つと思う
- ④数学の勉強は大切だと思う
- ⑤数学の授業で学習したことは、社会に出たときに役に立つと思う
- ⑥平日のテレビ、ビデオ、DVDの視聴時間
- ⑦平日のテレビゲームの時間
- ⑧平日の携帯やスマホによる通話、メール、インターネットにかける時間
- ⑨平日の勉強時間



学校評価から



考察

- ・学校生活を楽しいと感じている生徒が多く、達成感・充実感を得ている。
- ・教科の基礎基本の定着と学習習慣の確立に課題がみられる。授業改善の視点として、単元目標、単元を通して身に付けたい力、本時の学習で身に付けたい力の明確化を位置づける。
- ・教師側が生徒と接する時間の確保に課題がある。教育相談的アプローチをすすめることで、生徒理解を深め、開発的・予防的な生徒指導の充実を図る必要がある。
- ・放課後ダイアリーのかつようについて、家庭学習の推奨だけでなく、生徒の心のケア、生徒のSOSの発信、教師との対話という面を大切に考えていくなど、活用方法を工夫することが可能と考えられる。

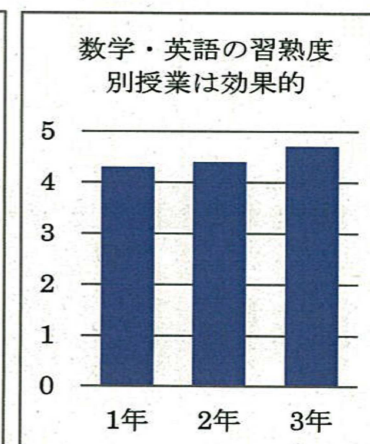
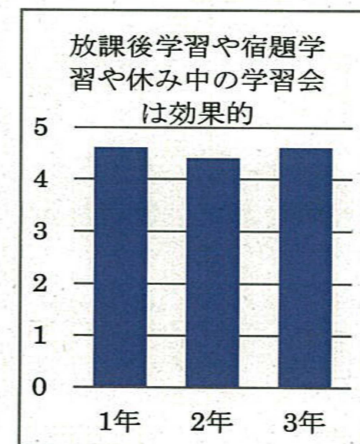


主体的に時代・ふるさとを拓く 豊かでたくましく生きる生徒の育成

学校評価アンケートから



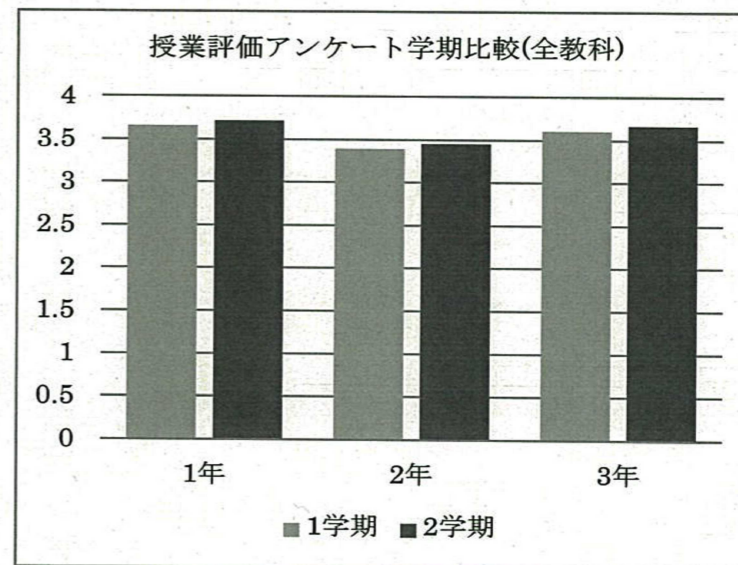
生徒からの評価は、アンケート質問10項目について、「おおむね良い」と判断できます(どの学年も5段階評価で4以上)。保護者からの評価は、記述から、行事に対する高評価がある一方、日常生活での生徒の言動の問題を指摘する声もありました。



授業評価アンケートから

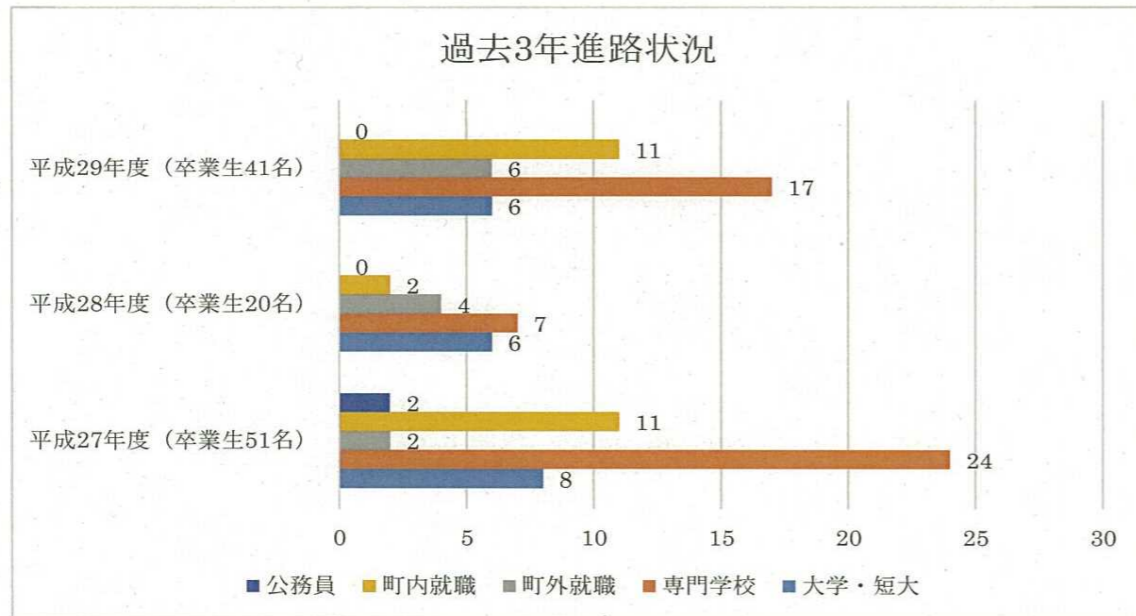


本校では質問項目の「課題を明確に(見通し)」「考えの交流(アクティブラーニング)」「振り返り」を意識して授業を計画し実践しています。アンケートの結果の全教科平均値を見ると、4段階評価の3以上で、2学期は1学期の評価よりも上昇しています。この結果から、生徒はどの教科にも前向きに取り組むことができていると評価できます。



たくましい体力と精神力を身につけた生徒

- 体力向上を目的とした北海道教育委員会主催の「どさん子元気アップチャレンジ」の取り組みでは、縄跳びへのエントリーで本校生徒の中から根室管内の上位入賞者が複数出ています。
- 全国学力学習状況調査の質問項目の中では、「物事を最後までやり遂げ、嬉しかったことがある」生徒の割合が多い。「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」生徒の割合が多い。「自分には良いところがあると思う」生徒の割合が多い。という結果になっています。



羅臼高校の進路状況として過去3カ年分を掲載しました。今年度の進学・就職の割合は「6対4」と昨年度よりもやや就職者の多い年となりましたが、進学者が就職者を上回る傾向は、今後もつづくことが予想されます。4年制大学への進学に関しては、AO、推薦、一般など、今後ますます多様化する入試制度に対応する力が求められています。校内外での実績、および進学先にふさわしい一定の学力が求められます。基礎学力の定着が課題です。就職に関しては、町内を希望する生徒が多い一方、必ずしも希望する職種に就くことができないという事例もあります。

こうした現状から、進路指導部では以下の課題と対策を立てて、1年間取り組んで参りました。

■進学分野の課題と対策

センター試験・一般入試において通用する学力の育成

●課題 中学校段階での基礎学力が不十分で、学習習慣が身につけていない生徒が多い。1年生の段階から進学を考えている者に、受験を意識した学習指導をしていく。

●対策 特に英・数・国の学力向上に重点をおいて、授業と講習の効果的な連携を図る。

●成果 平常講習、夏期・冬期講習において受験指導を継続的に行った。1、2年生は基礎学力向上の徹底、3年生は模試等の振り返りを普段の学習に生かし、復習の機会を通じて見直しをもった勉強をするよう指導している。
今年度はセンター試験を3名受験した。教科によっては9割近い得点もあったが、得点に伸び悩む教科が多数散見された。特に英・数・国においては、1年生からの積み重ねを重視した指導を意識する必要がある。
今後ますます多様化する受験（具体的には、センター試験に変わる「新テスト」）に対応するべく、本校においても授業改革が進められている。

■就職分野の課題と対策

就職解禁と同時に就職活動を開始できる体制づくり

●課題 就職決定の早期化に伴い、就職試験出願へむけた準備に関する指導強化、指導体制の確立と組織化を図る。

●対策 夏期休業前に就職ガイダンスを実施、夏休み中の就職活動について指導する。夏期休業中もセミナー（就職者に向けた講習）を実施し、内容をさらに充実させる。

●成果 就職に対する心構えの指導、および外部の講師の方の講話等から、効果的な就職指導に結びつけることができた。今後もこうした機会を生かし、社会の変化に関する情報を常にキャッチし、早めの指導を心がけていく。7月に町内企業等のご協力の下、合同説明会を行った。こちらからの情報発信とともに、既卒生の就職先だけではなく、各企業の方との積極的な結びつきが必要に感じる。求人内容も限られている中で生徒の希望と合致しない場合も多いが、今後も地域への情報発信を行いながら、連携を密にしていきたい。

■進路全般の課題と対策

●課題 体系性をもった3年間の進路指導の一層の充実を図る。

早期からの進路意識の構築

●成果 7月の大学・短大・専門学校・企業を招いてのキャリアプランニング（合同説明会）、職業人講話、小論文指導など様々な活動を行った。進路指導部通信（「羅針盤」）発行を通じて、生徒・保護者向けに進路情報を伝えている。12月に行った進路報告会では、プレゼンテーション能力の育成を図り、中学校にも呼びかけることで、より多くの人に聴いてもらいながら自身の進路活動を振り返る機会をもつことができた。これらの成果を来年度も継承するとともに、地域や保護者の方々の積極的な関わりを促せる場の提供を考えていきたい。

